

## 1. 教員および授業の概要

①教員名：豊田 知世 (Toyota, Tomoyo)

②担当科目：北東アジア超域研究総論  
地域開発政策専門講義 15 (環境社会学)  
地域開発政策研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

- ・ 広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了
- ・ 博士 (法学) 博士 (学術)
- ・ 環境経済学、開発経済学、エコロジカル経済学

④所属学会

国際開発学会、環境科学会、土木学会環境システム、環境経済・政策学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ 経済発展と環境問題
- ・ 地域資源の活用による経済効果
- ・ 環境影響評価

⑥研究指導方針

地域から地球規模までのさまざまな課題に対して、開発経済学や環境経済学の手法を用いながら研究指導を行う。研究テーマは、利用可能なデータや資料などを考慮し、研究の実現可能性を確認しながら、学生の希望を考慮する。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

- ・ 農業／都市の開発と環境問題
- ・ 地域エネルギーの利活用
- ・ 開発途上国の開発と環境問題

## 2. 研究業績リスト

### ①主要著書

- (1) アジアの穀物消費の環境的意味：エコロジカルフットプリントによる評価」、秋葉まり子編『グローバリゼーションの中のアジア：新しい分析課題の提示』、弘前大学出版会、2012年、pp187-208（単著）。
- (2) ‘Carbon dioxide reduction effects of yen loan coal-fired power plant projects’, edited by Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota, “Climate change mitigation and international development cooperation”, 2012, Taylor and Francis（共著・編集）。
- (3) 「東京の水環境：社会・経済的基盤」、「大阪の水環境：社会・経済基盤」、「ジャカルタの水環境：社会・経済基盤」、「マニラの水環境：社会・経済基盤」、谷口真人他編著『アジアの都市と水環境』、古今書院、2010年（共著）。
- (4) 『アジア巨大都市 街と水の風景：都市景観から水環境を考える』、2010年、新泉社（共著・編集）。
- (5) ‘Long-term urbanization and land subsidence in Asian megacities: An indicators system approach’, edited by Makoto Taniguchi, “Groundwater and Subsurface Environment”, 2010, Springer（共著）。
- (6) 「都市の経済発展と地盤沈下」、谷口編『アジアの地下環境』、2010年、学報社、pp37-65（共著）。

### ②主要論文

- (1) 「わが国森林事業の効率性分析」、総合政策論叢、28号、33-40、2014（共著）。
- (2) ‘Recent decline in heavy metal pollution in marine sediments in Jakarta Bay’, *Indonesia due to the effects of environmental regulations Estuarine Coastal and Shelf Science*, 92: 297-306, 2011（共著）。
- (3) 「バイオ燃料利用促進によるトウモロコシとサトウキビの国際取引と環境影響評価 - エコロジカルフットプリントを指標として - 」、『環境システム学会』、土木学会環境システム委員会、36号、2008年、pp245-254（共著）。

## 3. 学生に対するメッセージ

大学院では、興味関心のある課題や問題について本などを読んで勉強するだけでなく、「研究」を行うことが求められます。関心のある課題のなかから、実現可能な研究テーマを見つけ、さらにその研究テーマを分析するための手法を学び、自分で分析し、新しい結果を導き出すプロセスが必要となります。学生の皆さんには、体系的かつ学際的に課題や問題が発生するプロセスについて考察すること、研究テーマに好奇心を持って取り組むことを期待しています。